

## 9 研究活動と研究環境

### 進捗状況報告

#### 【9.1】

- 「教員及び学生（卒研究生）の研究上の成果を学会、研究集会等の場で発表し、かつ、レフェリー付学術雑誌に掲載する。」に関しては、2007年度も前回の自己点検時同様、研究成果の活発な口頭発表、レフェリー付学術雑誌への掲載が行われている（「基本的な指標データ92111専任教員の研究成果発表状況」参照）。
- 「研究成果の発表・掲載に必要な経費を確保する。」に関しては、前回記した「産学連絡研究会から学生への学会旅費補助金額が以前の半額以下にまで減少している。」状況と変わっていない。
- 「研究を遂行する上で必要な文献類を確保する。また、インターネットによる文献へのアクセスなど利便性の向上をはかる。」については、前回の自己点検時に比べて大きく文献類の削減がなされたわけではないものの、ここ数年の財政難による学術雑誌の恒常的講読打ち切りの効果が特に一部の研究分野には負の影響を与えつつあるのではないかと危惧される。また、紙媒体から電子媒体への移行が進んでいる。
- 「キリスト教主義教育の立場から科学技術に関する倫理教育を推進していく。」に関しては継続的な取り組みにより、前回同様の高い自己評価を与えることが出来る。

#### 【9.2】

- 「理工学部・理学研究科における研究を一層活性化して、その成果を公表するように奨励する。」については前回の評価と同様、大多数の教員・大学院生・若手研究員による活発な研究が継続されている。
- 「科学研究費補助金をはじめとする研究補助金、その他の外部資金を導入する。」については、引き続き多額の外部資金を獲得している。2007年度には、新たに3件文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター2件、ハイテク・リサーチ・センター1件）に採択され、現在8つのセンター事業が展開している。特定プロジェクト研究センターも2008年度から新たに2つ（「数理科学研究センター」、「SiC材料・プロセス研究開発センター」）が始動し、合計5センターとなった。また、受託研究21件、学外共同研究28件、寄付金18件があった。科学研究費補助金については、理工学部全体で42件の採択があったが、専任教員の科学研究費補助金の採択状況がここ数年低下気味（大学基礎データ（大学基準協会）表33参照）であるのが気にかかる。科学研究費補助金の採択率を上げるための組織的な対策を行う時期に来ているのではないかと思われる。
- 「海外の研究者との交流を促進する。」については、研究科教員の中期、長期の海外での研究は依然としてハードルが高く、大学院生の増加も手伝って進展がみられていない。

### 学内第三者評価

研究成果とその公表、研究外部資金の導入などについては、引き続き堅調に実績を上げている。もっとも、専任教員の科学研究費補助金の採択状況が低下気味であることや、教員が海外の研究者との交流を促進することへのハードルの高さについては、依然として課題である。

— 以下全学共通 —

研究成果の発表状況について以下の表のとおりであることに留意されたい。

学部	年度	著書	論文	レフェリー付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
	2001	11	79	88	60	136	0	0	1	2	0	0	4	17	1	3
	2002	21	69	65	69	119	1	0	0	0	0	0	8	17	0	10
理工学部	2003	8	91	66	103	147	0	0	1	0	0	1	18	13	5	2
	2004	13	81	63	68	181	0	0	1	0	1	1	13	6	0	4
	2005	15	73	79	53	249	1	0	0	0	2	0	34	5	0	0
	2006	16	74	69	68	164	1	0	0	0	1	0	21	22	0	0
	2007	4	12	48	34	84	0	0	0	0	0	0	1	6	0	1
計		88	479	478	455	1080	3	0	3	2	4	2	99	86	6	20

（基本的な指標データNo9211、「関西学院大学研究業績データベース」に登録されている件数）